

# FOMCは事前予想どおり、2会合ぶりの利上げ

## ～パウエル議長は引き続き「データ次第」の姿勢～

### ◆声明文は概ね前回の内容を踏襲

7月25-26日、FRB（米連邦準備理事会）はFOMC（米連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利（FF金利）を0.25%引き上げ、5.25～5.50%とすることを全会一致で決めました。市場予想どおりの決定でした。

前回6月のFOMCでは、2022年3月から始まった今回の利上げ局面において初めて利上げを見送りました。今回は2会合ぶりの利上げ再開でした。米国の総合CPI（消費者物価指数）は、6月に前年同月比+3.0%とピーク時（2022年6月:+9.1%）の3分の1以下まで伸びは鈍化しましたが、FRBの目標である2%をなお上回っています。こうした状況を踏まえて再開に踏み切ったとみられます。

声明文は、景気の現状判断をわずかに上方修正したことを除き、ほとんどの部分で前回の表現を踏襲しました。パウエル議長は記者会見で、今後の政策運営について引き続き「データ次第」で臨む姿勢を示しました。

※FF（フェデラル・ファンド）金利

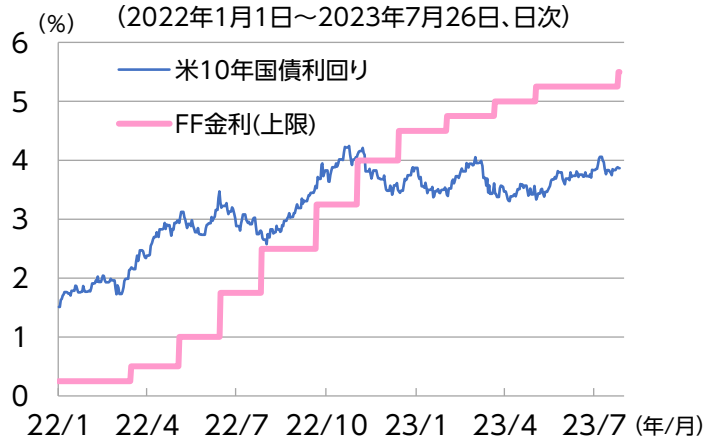
### ◆市場の反応

FRBは前回6月のFOMCで、2023年末の政策金利の見通しを5.625%と示しました。今回に加え、年内もう1回の追加利上げを示唆していると読めますが、金融市場では利上げは今回で打ち止めとの見方が優勢です。しかし、今回の声明文と議長会見のトーンは前回とほぼ変わらず、金融市場に追加利上げを織り込ませようとする意図はそれほど強くは見られなかったと受け止められました。

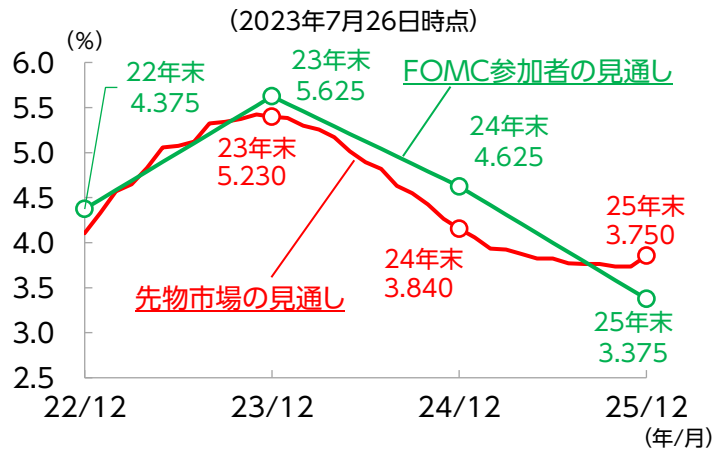
26日の米国債券市場では、10年国債利回りが低下しました。為替市場では一時的に1ドル=139円台に入る場面があるなど、円高・米ドル安方向の動きとなりました。株式市場では、S&P500指数とナスダック総合指数が下落しましたが、NYダウは約36年ぶりとなる13営業日続伸となり、終値は2022年2月以来1年5カ月ぶりの高水準になりました。

次回FOMCは9月19-20日に開催されます。それまでに、雇用統計とCPIの発表が2回ずつ予定されています。金融市場では、景気・物価動向を確認しながら、追加利上げの有無を見極めていくことになりそうです。

### 米10年国債利回りとFF金利誘導目標(上限)



### 先物市場およびFOMCのFF金利見通し



### 海外金融市場の動向

	7月26日 終値	前日比	
		変化幅	騰落率 (%)
NYダウ (米)	35,520.12	▲82.05	0.23
S&P500 (米)	4,566.75	▲0.71	▲0.02
ナスダック総合 (米)	14,127.28	▲17.28	▲0.12
FTSE100 (英)	7,676.89	▲14.91	▲0.19
DAX (ドイツ)	16,131.46	▲80.13	▲0.49
米国10年国債利回り	3.87%	▲0.02	-
米ドル/円 (円) ※	140.24	▲0.66	▲0.47
WTI原油先物	78.78	▲0.85	▲1.07

※米国市場の終値

(信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成)

#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。